

日比谷公園に於ける東京市番町

幼稚園暑中休み中の園外保育を見て

氏 原 鈍

八月九日 日比谷公園の兒童遊戯場のベンチに、三十餘名の幼兒の息ひて、各兒辨當入の小バスケットを傍らに置き或は食し或は食し終りてお茶をのむ者もあり、之れを世話する洋装の若き婦人三人と青年の一人あり、此の炎暑の折柄、何れよりの遠足者なるかを、奇異の思ひを抱いて注視して傍らに近付くに、突然洋装婦人の、私の前に挨拶せらるるを見れば、番町幼稚園の首席保姆檜山先生なるに驚けり。而して其事情を求るに、夏休み中幼兒の家庭で徒然に過ごさんと思ひ、試みに園兒の希望者を目

々順番に、三十餘名を引率して、日比谷公園又は靖國神社境内に、清らかなる空氣の呼吸に、身體の運動を爲すと共に、自然に接觸をなさしめん爲に、夏休み中の園外保育をなすものなるを聴き、此炎暑中にも拘はらず、此特志の事業を感激して措く能はざる次第で御座います。

此往復自動車の費用は、一人十七錢なり。辨當は暑きの折柄なれば、一切鹽おむすびとなすも、中にはのり巻きすしを持參する者もあり、此舉を幸にして家庭で大に喜ばれ一方職員諸氏の熱心從事せらるるを得て好都合に過ごす事を喜ぶと、併し此園外保育の文部省保育夏期講習會時日と差合ひて出願しながらも受講出來ざりし事の残念なりと。此夏休み中の幼兒の爲めに、幼稚園を開放して、慰安する園あるを知るも、斯の番町幼稚園の如き、日日變化ある自然界に接觸せしむる、生活を付與せる、暑中の園外保育の美舉は未だ曾てきかざる事なり此の經驗の狀況は是非本誌上に掲載せられ様、檜山氏に御勤め致して置きました。茲に其概要を記して、檜山氏初め他の職員諸氏の暑中の折柄の御骨折を感謝す。